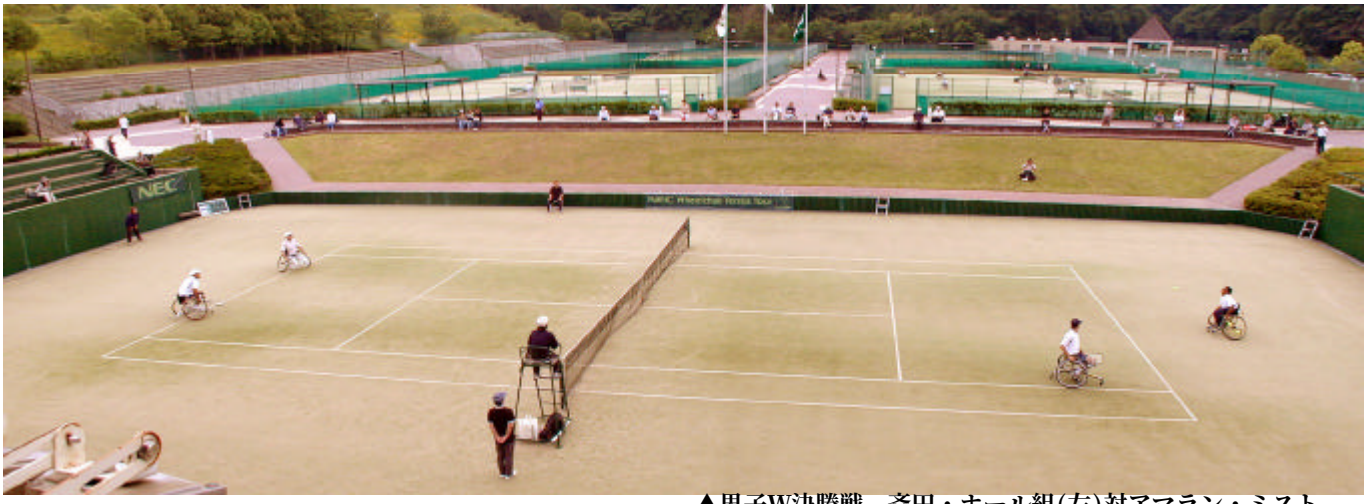

▲男子W決勝戦、斉田・ホール組(左)対アマラン・ミストリー組(右)

国際車いすテニストーナメント

ＫＯＢＥ ＯＰＥＮ ２００４

わとカレッジ学生が支援活動

国５-国　久保 雅一

１９９３年の初回開催から１１回目を迎える今年度の神戸大会は5月１８日から5月２３日までの6日間、しあわせの村のテニスコートと神戸市総合運動公園の２ヶ所で行われました。

参加選手は総数１７０人（内海外選手は２１人）、ボランティア総数３３５人（内グループわ からはカレッジ在学生有志３３名も加えて８３名、延べ人日では１７９人日）、大会運営役員５３人でした。

車いすテニスは通常のテニスコートを使い、２バウンドまでに返球します。健常者プレーヤーは前後左右に動いて返球をしますが、車いすは前後しか動けないので、左右に動くときは両側の車輪を操って車いすの向きを変え前進して返球します。方向転換の際の遠心力で車いすが転倒するのを抑えるため、車輪はハの字形にレーキ（傾斜）をつけた競技専用車でプレーをします。

▲サーブの瞬間

参加選手の荷物は通常使用の車いす、競技用車、ラケットセットと身の回り荷物の４個となります。このために移動するときは介助が必要になります。国内選手は介助者が同伴していますが海外選手はほとんどの方が１人で移動しているので、送迎、移動のために我々ボランティアの介助が必要になります。会場では食事、飲み物、補食（バナナ）等の手渡し、仮設テントの設営、交通整理、宿舎でのよろず案内などのボランティアをしました。以上に対して７月１３日に国際車いすテニストーナメント実行委員会の滑川良雄委員長名で グループわ に感謝状が授与されました。（右下写真）

今回の大会では大会運営役員の重鎮であり、阪神大震災で両足を切断された肉体的ハンディと精神的重荷を乗り越えて選手としても出場した神戸市在住の沖 賢次さんの姿に触れて、私はボランティアとしての勤めをするだけでなく、生きる力を頂きましたことに感謝しています。

２００５年４月に第１２回神戸大会が予定されています。この大会に グループわ として参加をするべく準備に入りました。◆

▲テントを立てて飲物・弁当を配って…、のサービス

▲表彰式。男子Ｓ優勝のアマラン選手のスピーチを通訳する園芸６期の岩崎さん。